

---

---

## 木曾広域消防本部 発足30周年記念誌に寄せて

木曾広域連合  
連合長 原 久仁男  
(木曾町長)



木曾広域消防本部発足30周年という歴史を重ねてきていただいたことに感謝を申し上げ、先人も含めて職員をはじめ関係された皆さんに心より敬意と感謝を申し上げます。

私自身も広域消防本部発足時に木曾福島町の消防主任であり、消防施設の点検業務などずいぶんとお世話になったことを覚えています。また広域連合副管理者在職中には、消防本部の県内1本化などの動きがあり、県内の組織のありようが大きく異なっていたことに大きな驚きを感じ勉強させていただきました。

消防本部は救急搬送が件数的には圧倒的に多いわけですが、火山噴火による捜索があり、火災への消火活動や水中捜索など多種にわたっての任務があります。それ故に隊員におかれては日常的にそれらの知識の習得や体力の維持などご苦勞が大きいと思います。子供たちがあこがれの職場でもあります。今後も木曾地域のみなさんの安心と安全確保のため全力で任務にあたっていただくことを心から願います。ますますの活躍を期待しています。



---

## 常備消防発足30周年を迎えて

木曾広域消防本部  
消防長 谷口 利則



このたび、木曾広域消防本部では、発足30周年という節目の年を迎え、消防の足跡を記録した記念誌を発刊することとなりました。当消防本部は、木曾郡11ヶ町村を管轄する前身の木曾郡救急隊から、平成3年4月に1本部1署2分署、職員数51名でスタートし、その後の町村合併で、管轄する木曾郡6町村と塩尻市檜川地区の消防事務を受託し、現在は職員数68名体制で消防団と連携しながら、住民の安全と安心のため、日々活動を行っているところです。

この間、先輩諸兄のたゆまぬ努力により改革や整備が行われ、今日の消防体制が構築されてきた、そのご功績に深い感謝と敬意を表します。

近年、全国各地で大規模な自然災害が発生し、被害が増大しています。当消防本部でも平成26年に御嶽山噴火災害が発生し、58名の尊い命が奪われ、5名の方々が行方不明となっています。また、大型台風や集中豪雨などの災害が発生するなど、消防の取り巻く環境が変化していく中、私たち消防職員は、熱意と誠意をもって、木曾地域の安全、安心に向け邁進してまいります。

結びに、関係各位の多大なるご尽力に対しまして、感謝を申し上げるとともに、今後も消防体制の充実強化に努めてまいりますので、ご支援とご協力をお願いして、発足30周年の挨拶とさせていただきます。